

WEEKLY REPORT

自己紹介が長くなりましたが、ここで銀行の置かれた状況を自分なりの知っているところで、簡単にお話します。日本銀行のマイナス金利政策から一部緩和誘導へ、7月末頃の報道で出ましたが、引続き低金利時代が推移しています。最近あまり聞かれなくなった言葉ですが、アベノミクス政策により、景気動向はまずまず好調との話もありますが、依然2%の目標としている物価上昇率は達成出来ず、すべての人が好況の実感を伴わない、そういう状況が続いていると思います。その中で、地域金融機関の収益状況では報道で出ている通り、低金利による経営環境の悪化懸念が出ております。具体的に言うと、銀行は貸出金利息から預金利息を支払って残りが銀行の利益になりますが、貸出金も預金も残高は増加しているのに貸出金利回りがそれ以上に悪化していて、収益が減少している。そういう現象が出ております。これは当行においてもご他聞に漏れません。したがって、銀行本業である預金を集めて、お金を貸す、だけでは収益が上がりませんので、具体的には収益強化のためには役務収益、いわゆる手数料等にてサービスに対する対価を頂戴するという必要が出てくるという状況です。皆様方には、振込手数料が高い、キャッシュカードによる手数料が高い、銀行が投信や保険まで勧めてくるだとか、最近両替手数料まで取るのか、とかいろいろご不満があるかと思いますが、こういう理由からです。ご了承下さい。今後、金利環境が上がって、銀行本来の貸出金利が上昇してくれば、また経営方針も変わってくるかもしれません。

最後に、先ほどの私の経歴の中で、現職の小金支店の前に在籍していた、支店推進部内のBPR推進室とは何かのお話しをします。推進室といっても本部内にきちんとした部屋が用意されているわけでもなく、1フロアの一部のラインに5人在籍しているという非常に小さい部署です。BPRとは、ご存知の方もいらっしゃると思いますが、ビジネス・プロセス・リエンジニアリング、直訳すると事業の再構築。辞書の言葉で言うと、「ビジネス・プロセスを見直し抜本的に設計しなおすこと。社内の業務プロセスを改善するという意味にとどまらず、ビジネス・プロセスが最適になるように、コスト削減とスピードアップを考え、社内のムダや不合理を省き、しくみを改めること」となります。業務や事務・工程の中では不要なものがあるかもしれない。あるいは過去に事故や事件があり、リスク管理のために増やした工程が、時代の経過とともに既に無駄な工程となっていないか、そもそもそのリスクは既に不要になっていないのか、すべての工程を理解把握し、そもそもの工程を作り直すという、指導をする仕事です。ただし、銀行の仕事は、いわゆるデスクワークですので事務を掘り下げていないとこれは分からない、理解できない。自分たちで問題意識を持って問題を提起していかないと、問題自体も発覚しないし、明確とならない、この部署にいる自分達の仕事も無い、といった部署です。但しこの仕事は、我々が気付き、問題を提起していくと、その主管の担当部から勿論、組織ですから、あえて口に出して言われないが「現状では問題はないのだから、このままでよいではないか」、という快く思われてはいない。営業店からも、事務を理解すればプロセスが改善するということは分かっているが、事務変更を改めて覚えなおさなければいけないという不満。今まで通り、同じことを同じようにやっていけば問題ないし楽だという認識に対し、言わば憎まれ役な仕事ということです。ただ会社組織としては、この時期、このタイミングで問題提起をしていかないと、ずっとこのままでは、ムリ・ムダ・ムラを改善しない。現在の環境下では、収益改善にはコスト削減、帳票ベースでの削減だけでなく、労働時間削減、余った体力を営業活動へ生かす利点が必要な仕事であったと思います。ただこの部署は銀行業務では特殊な部署であり、専門的な知識は必要でありながら、自分は1年半しか在籍をしていなかったもので、さほどの習得は出来ずに、転勤してしまっており、自分も生半可な知識しか持ち得なかったという点で、えらそうなことはいえませんが、「BPR」、この言葉を知ってもらって、インターネット等で調べてもらいますと、今お伝えしたような、考え方をより良くご理解できると思います。皆様のお仕事上でのほんの一点ではありますが、効率化という観点から、ご参考にしていただければと思います。

以上、だらだらと拙いお話でありましたが終了いたします。ありがとうございました。

社会奉仕基金 3,225円 《会報編集委員》大川隆永・野澤新之助・高橋修・森谷充伯

Rotary  2018-2019年度

国際ロータリー 第2790地区 第12分区

松戸北ロータリークラブ会報



インスピレーションになろう

「四つのテスト」 言行はこれに照らしてから

- 1・真実かどうか
- 2・みんなに公平か
- 3・好意と友情を深めるか
- 4・みんなのためになるかどうか

第2218回 例会 2018年9月12日(水)

- | | | | |
|----------------|---------|-----------|---------------------------------------|
| ■国際ロータリー会長 | バリー・ラシン | ■例会日 | 毎週水曜日12:30より(第1例会18:30) |
| ■第2790地区ガバナー | 橋岡久太郎 | ■例会場 | 流山市前ヶ崎717「柏日本閣」 |
| ■第12分区ガバナー補佐 | 野村 充 | ■事務所 | 松戸市八ヶ崎1-11-13 カナイズ・ハイツ101 |
| ■松戸北ロータリークラブ会長 | 高橋 一彦 | ■TEL/FAX | 047-711-5950 / 047-711-5910 |
| ■松戸北ロータリークラブ幹事 | 小澤 直之 | ■Web/Mail | www.rc2790-12.jp / kanji@rc2790-12.jp |

WEEKLY REPORT

<第2218回 例会プログラム>

12:30	点鐘	高橋一彦会長
	ロータリーソング斉唱 【♪我等の生業】	
12:33	お客様紹介 大川高明会長エレクト	
12:35	会食	
13:00	例会再開	
	会長挨拶・報告	高橋一彦会長
	幹事報告	小澤直之幹事
13:05	【卓話】 「私の履歴と仕事」	井桁裕之会員
13:25	【委員会報告】	
	■社会奉仕委員会 本日の社会奉仕基金発表	大塚精一委員長
	■ニコニコ・出席・親睦活動委員会 本日のニコニコ発表	野澤新之助委員
13:30	点鐘 高橋一彦会長	

<会長挨拶：高橋一彦会長>

テニスプレーヤーの大阪なおみさんが素晴らしい結果を出しました。3歳から渡米し、英才教育は有りませうが大変な偉業だと思います。またそれと絡み私は、コーチのサーシャ・バイン氏の指導力と哲学は素晴らしいものだと感じました。選手と同じ目線に立ち、どう実力を引き出して行くか上手く探りながら課題を与えるそうです。「できるだけ楽しく、ポジティブな雰囲気」をまた、「選手は一人一人違い、成功の形式はない。ベストを引き出すにはどうすればいいかを個々に考える」など、たしかに1対1の関係だからこそ可能な事も存在するかもしれません。

ただ私には彼の中にコーチとしてだけでなく、同じ目標に向けて行動する意味での相手への心遣いを強く感じ、何事にも信頼関係を築き共に行動して行く事が大切であると再認識をさせられたような気持ちでございました。

日本のスポーツ関連にもこのような指導者が増えれば良いですね！

一部のスポーツ業界に違和感を感じる今日この頃ですが、幼少の頃からスポーツに接し、夢を抱いている少年、少女にとっては大変に困惑する話題が報道され過ぎだと感じます。

スポーツ界そのものにビジネスの幅が増えた事もあるのかもしれませんが。

どの業界においても運営の中での指導は多々あると思いますが、組織を利用し高圧的にならない様に、後に続く若者達には出来る限りに納得のいく良い方法を与えてあげる事が大切になるのかもしれませんが。やはり『皆に公平か』どうかだと思います。

スポーツの全てに問題がある訳ではございませんが、このままではスポーツ界を目指す若者達が自分の置かれた立場や状況において、不条理に対応すべく悪い知識・知恵を授かりそうで心配です。皆様はどうお考えになるのでしょうか？

皆様も代表をお勤めなされていると立場と思われまます。

後世を担う若者達への教えにおいても考えを寄せていくべき課題の一つとなるのではないのでしょうか。

<幹事報告：小澤直之幹事>

- (1) 2021-22年度のガバナー候補の氏名が公表されました。
千葉ロータリークラブ 梶原 等 様
- (2) ロータリー財団より補助金プロジェクトとして1,000ドル以上の支援募集のお願いが来ています。
- (3) 活動計画書の修正につきまして
1. 「87ページ」吉田会員の結婚記念日を昭和35年2月13日に、入会年月日を昭和59年9月25日に修正願います。
2. 「55ページ」2018～19年度クラブ内研修計画の本文の下に、配布したステッカーを貼付願います。



WEEKLY REPORT

<卓話：井桁裕之会員：私の履歴と仕事>



井桁と申します。改めてですが、現在は千葉興業銀行小金支店の支店長をしております。本日は私にお話を仰せつかりまして僭越ながらお時間を頂戴いたします。

まずは6月に歓迎会の時の話とダブルなのですが、自分の自己紹介の話から話したいと思います。ただし自分のたどって来た道を、改めて振替ってみますと、さほど大きな山場は無く、皆さんに聞いていただいても、面白い話しでは無いと思いますが、少しばかりお付き合いを下さい。

私は、昭和40年8月生まれ、今年の誕生日で53歳となりました。千葉市出身です。

学校は、千葉市内の小中高校に通っていました。自分は小柄で小学校時代は背の順ではいつも一番前で、前へ習え、ではいつも手を横に組むポーズしかやっていなかった、ので、中学生でスポーツ部というのは気後れしてしまい、特に何もやらず、帰宅部。その後、千葉市内の県立高校に入学も同様に帰宅部。さりとして、家に早く帰るからといって自宅で勉強していたわけでもなく、のんびらだらりと過ごし、結局、大学受験では1年浪人してしまいました。

ただこの一浪が一つの転機だったかと思えます。今まで、千葉市内で自宅から同じような生活を続けてきた自分ですので、少しここで刺激を受けたく東京の予備校へ行きました。同級生の同様な浪人生では近くの予備校に通う人も多かったのですが、少し環境を変えたいと思ったからです。この時代背景は、ロサンゼルスオリンピック開催。予備校の夏期講習の休み時間にロビーのテレビで瀬古利彦選手がマラソンレースで遅れ出したシーンを見たことを思い出します。

その後大学に合格出来て進学。自宅からだ通学2時間半位かかる場所だったので、3年生まで小田急線の千歳船橋でアパート住まいを始めました。当時借りたアパートは、風呂無く銭湯通い、部屋は6畳一間で流し場やガスコンロはありましたが、ガス栓をひねってマッチで火をつけるという当時でもかなり旧式のものでした。家賃は3万5千円。多少の不便はありましたが、むしろ1人住まいで、自由な気持ちとなった、そんな感じだったと思います。自宅もそんなに遠いわけでもないという気楽さもありましたし、この時、少しは自立したのでしょうか。大学入学時でいうと、バース・掛布・岡田の甲子園3連発など阪神優勝で大阪が盛り上がった、そんな時代です。バブル少し前、波が上がり始めたころでしょうか。

卒業後、千葉興業銀行に平成元年4月入行しました。

なぜ銀行への就職を選んだのかと言いますと、就職活動を行うに当たり、業種的には電機関連メーカー、その後、地域金融機関にて活動していました。ある電機メーカーの会社に内定をいただきまして、その内定連絡の電話で、「仕事については、海外にどんどん出てもらいますのでそのつもりでいて下さい。」と言われ、その瞬間に、希望を地元金融機関に変えた、そんな気持ちになったことを覚えております。これは当時、海外は嫌だったので、また銀行の土日は完全週休2日制だから、少しは楽ではという軽い気持ちだったと思います。最近話題の就職活動ですが、当時会社の紳士協定上での訪問解禁日が8月20日、その電話を受けたのが7月中旬だったと思いますので、志望変更するには、もうかなり遅い時期でしたが、千葉興業銀行へ就職内定したという経緯です。就職活動時期、やはり暑い夏で、当時、サザンオールスターズの「みんなのうた」が流行っていた時期でした。

その後、今まで30年の年月を勤めております。銀行に入った時期は記憶によると1年の定期預金が5～6%、大口定期預金は7%位の金利が付いていて、現在の定期預金金利0.01%と比べると雲泥の違いの時代でした。

支店の経歴は、最初に、検見川支店2年半、もう廃店となってしまった西千葉支店4年8ヶ月、それから佐倉支店3年弱、総合事務部半年、ここまでが一般行員。その後、船橋支店係長2年8ヶ月、審査部調査役4年9ヶ月、総合事務部融資事務担当調査役2年を経て、木更津支店副支店長2年、浜野支店支店長2年3ヶ月、辰巳台支店支店長3年、支店推進部BPR推進室長1年半で、今回、小金支店支店長を仰せつかったという経歴です。ですから今回が12番目の職場ということですよ。

銀行に入ってから心機一転になったきっかけを話しますと、32～33歳頃、同期でもそろそろ、役席（当時係長）になるものも出始める頃。本屋でふと、導かれるように司馬遼太郎の「竜馬が行く」を手に取り、読んでみようかな、という気になぜか急になりました。明治維新の時代はそこそこ好きであったものの、坂本龍馬が当時特別に好きであった訳でもなく、なぜそんな気持ちになったのか分かりませんが。読み始めると、興味を惹かれ、あっという間に、文庫本8冊を、たしか1ヶ月半位で読み終えたと思います。読み終えた後、坂本はあれだけのことをやって33歳の誕生日に暗殺された。自分は読み終えた時は、同年代の32～33歳、このまま、ふらふらしてどうなんだ、「気持ちを入れて仕事をしなくといけない」と思いました。そう思って行動すると仕事の回転もよくなり、不思議とこの後しばらく仕事の運も付いてきた、というような気がします。本当に、偶然、主人公が同年代、良い本に良い時期に巡り合えたと思います。（次ページへ）